

明治の文豪 森鷗外

我がまちの先哲たち

余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス

森鷗外記念館



国指定史跡「森鷗外旧宅」



鷗外が下宿していた建物
(現在のベルリン森鷗外記念館)



鷗外の留学が縁で平成7年に
ベルリン市中央区と姉妹都市縁組を締結

明治の文豪
森 鷗外 (もりおうがい)
1862～1922



文久2年(1862)、津和野藩主の御典医をつとめる森家の長男として誕生。本名・林太郎。幼いころから論語や孟子、オランダ語を学習。東京帝国大学医学部卒業後、陸軍軍医に。ドイツ留学後、『舞姫』『即興詩人』を発表。一時創作活動から遠ざかった後、『中々・セクスアリス』『雁』『高瀬舟』などを発表。大正11年(1922)、60歳で死去。

津和野町が生んだ明治の文豪・森鷗外。十歳で上京後、ドイツに留学し、陸軍軍医・文学者として活躍した。小倉で一時期過ごしたほかは主に東京で暮らしていましたが、「石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」という遺言を残したように終生ふるさとを忘れてはいませんでした。

開館しました。記念館では鷗外の遺品や直筆原稿などの貴重な資料を多数所蔵・展示。研究者のニーズにも応えられるよう、マイクロフィルムに納められた約三〇〇〇点にのぼる書簡なども閲覧できる施設となっています。記念館からは津和野川や三本松城の石垣、西周旧居を望むことができ、鷗外をはぐくんだおらかな自然や時の流れに浸りながら、その文学世界に思いをはせることができます。